



# 子どもの森づくり通信

(発行: NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク)

「子どもの森づくり運動」  
フラグシップ園会報  
(2014年4月号)

〒144-0054 東京都大田区新蒲田1-10-4 tel:03-5711-0362 fax:03-5711-2264  
http://www.kodomonono-mori.net mailto:info@kodomonono-mori.net

「子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。



東北のどんぐりから黄緑の葉っぱが芽吹いてまいりました。  
新入園児と同じでとても初々しいですね。

(目次)

1. 東北復興GW「どんぐりの絆BOX」完成しました。
  2. 今年もロハスデザイン大賞にエントリーします。
  3. 「アウトドアデイ2014」出展レポート
  4. 「東北復興GW」の苗木が元気に芽吹きました。
  5. 事務局からのお知らせ
- どんぐり博士の育苗講座 2014～基本編⑩～

## ■「子どもの森づくり運動」とは

今子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかし、子どもたち(特に幼少期の)は、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「子どもの森づくり運動」は、全国の保育園・幼稚園を拠点に一貫した森づくり活動を通じて、幼児期の子どもたちに「生きる力」と「健全な環境意識」を育むための自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

## ■「JP子どもの森づくり運動」とは

特別ご協賛企業「日本郵政グループ」様との協働で、運動を全国に普及促進するフラグシップ活動を「JP子どもの森づくり運動」、フラグシップ活動実施園を「JP園」として活動を展開、2010年7月、フラグシップ園全国ネットワークが構築されました。

## ■「子どもの森づくり運動」運営体制

・運 営 : NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク(「子森ネット」)

・特別協賛 : 日本郵政グループ

・後援/協力 : (社)全国私立保育園連盟

(社)大谷保育協会

(順不同) (社)国土緑化推進機構

NPO法人C・C・C 富良野自然塾

(社)日本森林インストラクター協会

NPO法人自然体験活動推進協議会

NPO法人MORIMORI ネットワーク

(社)日本オート・キャンプ協会

(株)実業之日本社 月刊ガルヴィ編集部

保育環境研究所ギビングツリー



## 1. 東北復興GW「どんぐりの絆BOX」完成しました。

「東北復興GW」の活動で、全国の幼稚園・保育園で育てた東北の苗木を被災地に運ぶオリジナルのBOXが完成しました。



子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」の活動では、東北の幼稚園・保育園の子どもたちと全国の幼稚園・保育園の子どもたちが、どんぐりの苗木を育てる活動を通じて互いに相手のことを思い合います。

このBOXは、そんな子どもたちを、「子どもの森づくり運動」を応援していただいている日本郵政グループさんのネットワークによって「絆」で結ぶBOXです。だから、わたしたちはこのBOXを「どんぐりの絆BOX」と名付けました。



BOXは、苗木ポッドが6個入る大のサイズと、2個入る小のサイズの二つのタイプがあります。ご活用いただけると幸いです。



大(長500mm × 幅350mm × 深550mm)



小(長350mm × 幅300mm × 深550mm)

## 2. 今年もロハスデザイン大賞にエントリーします。



昨年、子どもの森づくり運動は、「東北復興GW」の活動で、権威ある環境活動アワード「ロハスデザイン大賞2013」のコト部門で大賞を受賞しました。皆様と共に授かった大賞です。そして、今年は、「どんぐりの絆BOX」で「ロハスデザイン大賞2014」の「モノ」部門にエントリーします。東北の子どもたちと全国の子どもたちを緑の絆で繋ぐBOXは、環境アワードに相応しいツールであると考えます。大賞の審査は、インターネット投票による第一次審査によって最終ノミネートが選択され、その後インターネット投票、及び「新宿御苑展」における直接投票によって大賞が決定します。前回同様、是非投票にご参加いただけますようお願い申し上げます。審査は、下記ホームページから参加できます。

\* ロハスデザイン大賞公式ホームページ ⇒ <http://www.lohasclub.jp/lda2014/>

### 3. 「アウトドアデイ2014」出展レポート

「子どもの森づくり運動」では、今年も、2014年4月5日(土)、6日(日)の両日、東京都渋谷区「代々木公園」で開催された「アウトドアデージャパン2014」に出展しました。



本イベントでは、様々なアウトドアアクティビティの普及拡大のために行われているもので、アウトドアライフスタイルに関わる多くの企業や団体、メディアが出展する国内最大級のアウトドアイベントです。「子どもの森づくり運動」では、活動の広報活動と今後の活動展開に向けてアウトドア活動関連団体との交流促進を目的に出展しました。

天候にも恵まれ、またちょうどお花見の季節ということもあって、両日で10万人を超える来場者がありました。



ブースでは、「どんぐりの紙ハサミづくり」ワークショップを開催し、たくさんの方にご参加いただきました。

今回も「どんぐり君」は大活躍で、ちょっとした記念撮影スポットになっていました。



### 4. 「東北復興GW」の苗木が元気に芽吹きました。

2013年に、東北の保育園の子どもたちが拾って届けてくれたどんぐりが発芽しました。写真は、昨年の「エコプロダクツ2013」の日本郵政グループブースにおいて実施されたワークショップに参加してくれた子どもたちが植えたどんぐりの苗木です。きっと全国の幼稚園、保育園でも元気に芽吹いているでしょう。今年発芽した苗木は、2015年の5月22日に、岩手県山田町の森に植樹されます。



## 5. 事務局からのお知らせ

### 1)「東北復興GW」参加園の皆様へ～苗木を見送る活動のご提案～

「東北復興GW」における第一回目の植樹活動が、2014年5月22日(木)に岩手県山田町にて開催されます。

活動では、まず参加園から山田町に向けて苗木を送っていただくことから始まります。本活動の目的は、全国の参加園の子どもさんと被災地の子どもさんを『どんぐりの絆』でつなぐことが目的ですので、苗木を送る際子どもさんたちの記憶に残る「苗木を見送る会」を是非、開催していただければと思います。苗木を受け入れる山田町の保育園さんのご事情で、苗木を見送る活動は、5月のGW明けの5/7～5/17の11日間に限られております。早めに開催予定を事務局宛にお知らせいただけますようお願い申し上げます。なお、現在事務局では、「東北復興GW」オリジナルの「どんぐりBOX」を製作中です。完成次第、お送り申し上げます。(「どんぐりBOX」デザインイメージ案ご参照)

### 2)「植えた苗木の成長を見に行く活動」のご案内

苗木は、活動に携わった子どもたちの“大きくなあれ！”という願い、そしてそんな子どもたちを見守る保護者や幼稚園・保育園の先生たちの『子どもたちと共に健やかに育て』の願いを込めて植えられ、見守られてまいりました。だから植樹した苗木の成長は、それぞれの実施園における「子どもの森づくり運動」の活動の成果であり、子どもたちの“育ち”のスケールです。

そこで、今年の活動として、「植えた苗木を見に行き、その成長をみんな確認する活動」を提案します。今後、苗木の成長は定期的を確認することを考えたとき、例えばスケールとなる棒などを利用し、カラーテープ等で毎年の成長を記録する方法などもお奨めです。

活動の風景は、是非ホームページにてご紹介させていただきたいと思っておりますので、写真やレポートをお送り下さい。



### ●どんぐり博士の育苗講座 2014～基本編⑩～

前回は、小さな苗を植樹する場合、生長して森に成るときに必要な木の数より、かなり多めの本数を植樹する事について記しました。今回は植樹で苗を植え付ける際の間隔について、具体的な数値を示し考えてみます。どんぐり博士：河内和男(森林インストラクター)



風薫る季節となり、北日本以外では、昨秋植え付けたどんぐりが発芽し、2度目の春を迎えた苗は新しい葉が芽吹き始めたことと思います。昨年はこの後気温が低下し天候が荒れ、幼い苗が多数枯れてしまいました。今年は少雨で乾燥気味ですが、概して穏やかな初夏です。今後も穏やかに天候が推移することを切に願います。

では本題です。時候のお話しを入れた分焦点を絞り、林業で一般的に用いられている植樹の間隔について記します。林業によって植樹されて来た樹種は、スギ、ヒノキ、アカマツなどの針葉樹です。スギやヒノキなどは、1.8m(180cm)の間隔で植え付けられて来ました。この間隔で植え付ける理由の科学的根拠ははっきりしませんが、職人の感と、作業の行いやすさなどから経験的に決まったものだと思います。

子森の活動において、苗をこの180cm間隔で植え付けると、だいぶまばらに見えます。しかし10数年経って木が大きくなると、この間隔では狭すぎ、幹を太くすることができません。(この状態が間伐のされていない現在の人工林の状態です)健全な森での大きな木の間隔は、少なくとも平均で5m程度必要とされています。このことから、植樹時の苗の間隔や本数によらず、その後の森づくりが大切である事が分かります。